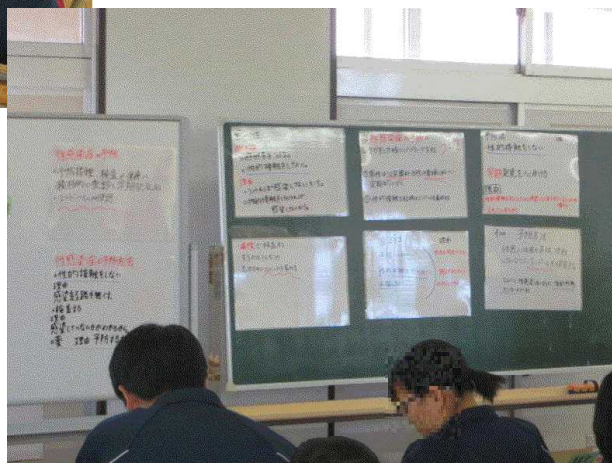


平成30年度保健体育科授業充実事業

中学校保健体育科授業実践事例

保健

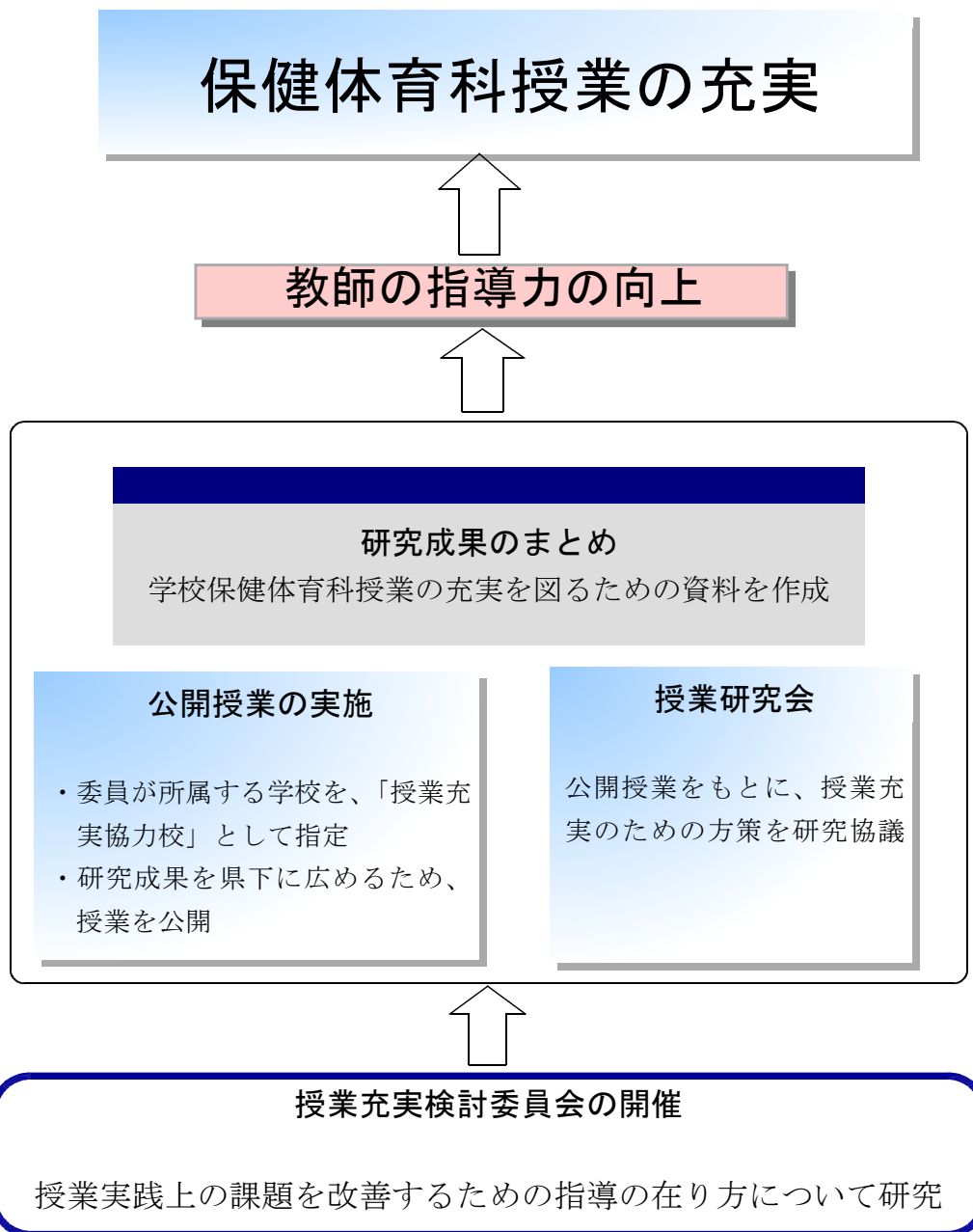


群馬県教育委員会
(健康体育課)

1 保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

中学校保健体育科授業の充実を図るため、授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。



2 実践事例

期 日：平成30年11月21日（水）
会 場：桐生市立境野中学校
単 元：保健分野「健康な生活と病気の予防」
 エ 感染症の予防
学 年：3年
授業者：齋藤 蘭 教諭

＜参考資料＞

- ①学習指導案
- ②学習カード等

平成30年度授業協力校及び授業充実推進員
桐生市立境野中学校 齋藤 蘭 教諭

平成30年度授業充実検討委員
重田 容一郎（東部教育事務所）
星野 隆臣（桐生市教育委員会）
勅使河原 誠（健康体育課）

[参考資料]

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】（平成20年9月）
- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】（平成29年7月）
- ・ はばたく群馬の指導プラン【群馬県教育委員会】（平成24年3月）
- ・ はばたく群馬の指導プラン実践の手引き
 【群馬県教育委員会】（平成26年3月）
- ・ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 保健体育）
 【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】（平成23年7月）
- ・ 「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き【文部科学省】（平成26年3月）
- ・ 中学校 保健学習の指導と評価の工夫 -知識の習得と活用を重視した実践例-
 【日本学校保健会】（平成27年2月）
- ・ 学校において予防すべき感染症の解説【日本学校保健会】（平成30年3月）
- ・ 教職員のための指導の手引き ～UPDATE！エイズ・性感染症～
 【日本学校保健会】（平成30年3月）

保健体育科学習指導案

平成30年11月21日（水）第5校時
場所：わたらせ教室（A棟4F西）
桐生市立境野中学校 3年2組 35名
指導者 教諭 齋藤 蘭

授業の視点

性感染症が自分自身に起こりうる問題として捉えるために、スライド資料や実験を用いて、性感染症の実情や感染の仕組みについての情報を提示し、グループで交流したことは、感染の原因やその予防方法を自ら考える上で有効であったか。

I 単元名 保健分野【健康な生活と病気の予防】 エ 感染症の予防

II 単元の考察

(1) 教材観

近年、性感染症の増加と低年齢化が社会問題となっている。増加の要因として、性感染症の種類や性差によっては自覚症状が現れにくく、知らない間に次の人へ感染させてしまうことがある。また、SNS等を通じて見知らぬ人と簡単につながり、人間関係を十分に築くことなく性的な関係を持つといった若者が増えていることも要因の一つである。

加えて、性感染症が若い世代に増加していることも大きな問題となっている。性行為をする年齢は法律で定められているわけではない。しかし、性行為をする前に、性に関する確かな知識と相手の体を大切にし、思いやる心が不可欠である。性感染症は自然に治ることはなく、治療をしないと不妊の原因や母子感染を起こし、流産や早産などの原因にもなる。これは、本人だけの問題だけでなく次世代にも大きな影響を及ぼすこととなる。性に関する指導は、保健体育科だけでなく、性に関する倫理的な面や人間関係の重要性、具体的な対処の仕方などについて、道徳や特別活動等で深めていき、相互に関連付けた指導が重要であると考えます。

『中学校学習指導要領』（平成29年告示）には、「感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。」とある。また、エイズ及び性感染症の予防については、エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、疾病概念や感染経路を理解し、予防方法を身に付ける必要性について明記している。保健分野では、生徒が保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解法を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成することを目指している。そのため、基礎的・基本的な知識の習得だけでなく、現在及び将来の生活で課題に直面した場合に、適切な判断のもとに行動できる力を身に付けさせたい。

本時の学習では、「他人事」ではなく、自分自身にも起こりうる問題として捉えることが重要であると考えます。そのために、生徒たちから性感染症の増加が「若い世代に増加」していることに気付かせたいと考えます。また、昨今性的接触が低年齢化していることが懸念されている。中学生の時期での行為は身体に大きな負担がかかることをきちんとおさえたい。生徒たちには「なぜ性感染症が若い世代に増加しているか」、「どうしたら予防できるのか」、「今後どのような行動に気を付けていくことが大切か」という課題に対して自ら考え、仲間との意見交流を通して、その考えを深めることをねらいとしている。

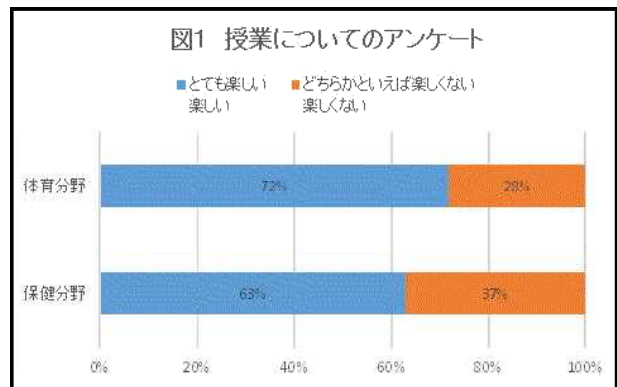
(2) 本単元に関わる生徒の実態

本学級の生徒は、明るく穏やかな生徒が多く、落ち着いて学習に取り組める生徒が多い。教師の発問に対して関心をもちながら、自分なりに考えたり友達同士で話し合ったりして学習を進めることができる。一方、積極的に発言する生徒は少なく、やや活気に欠ける部分もある。また、苦手意識が強い分野になると意欲が落ち込み、消極的になってしまう傾向にある。そのため、高い学習意欲をもたせ、積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせるようにしたい。

本生徒は、1・2年時に外部講師を招いて「性に関する講演会」を聞いているが、性感染症の知識が十分でない生徒が多く、科学的データに基づいた知識を学習することによって、性感染症の予防方法を考え、性感染症に対する理解を深めさせたい。そして、性について正しく学び、性に関する様々な問題を自分のこととして考え、自己の健康や自他の命を大切にしたい意思決定や行動選択ができる力を育てたい。

【関心・意欲・態度】

授業についてのアンケート結果(図1)では、体育分野では、「とても楽しい」・「楽しい」と回答した生徒は、全体の72%であり、「どちらかといえば楽しくない」・「楽しくない」と答えた生徒は、28%であった。保健分野では、「とても楽しい」・「楽しい」と回答した生徒は、63%、「どちらかといえば楽しくない」・「楽しくない」と答えた生徒は、37%であった。この結果から保健分野は体育分野と比べて関心が低い傾向にあることが分かった。



保健分野で「とても楽しい」・「楽しい」と回答した生徒の理由として、「生活に合った課題なので楽しい」「自分の体や健康について知れて楽しい」などがあげられた。「どちらかといえば楽しくない」・「楽しくない」と回答した生徒の理由は、「知っている内容が多いのでつまらない」や「あまり興味がない」というものだった。

【思考・判断】

保健分野における思考力や判断力についてのアンケートから、項目ごとに「保健の授業は、あなたの生活に生かされていますか」という問いでは、「とても生かされている・生かされている」と答えた生徒は、全体の47%にとどまった。また、「生かされている」と回答した数が一番多い項目は、『健康な生活と病気の予防「食生活の健康」』であった。回答した生徒の理由として、「味付けを濃くしないように心掛けるようになった」や「バランスよく食べるようになった」などがあげられた。

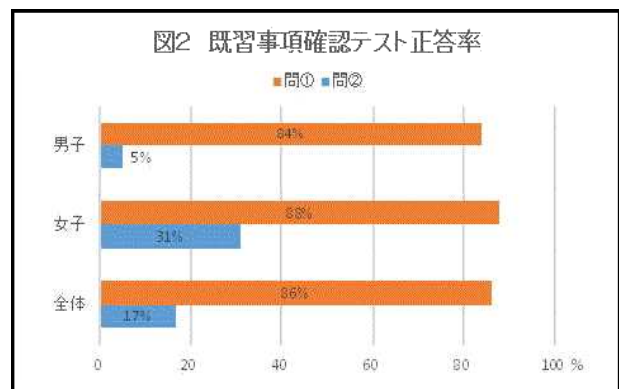
【知識・理解】

今回の単元を取り扱うに当たって、既習事項である「心身の機能の発達と心の健康」及び「生殖機能の成熟」から、以下の2つの問題による確認テストを行った。

問①『5月1日に月経が終わりました。次の月経予定日はいつですか。(28日周期とする)』

問②『また、次の排卵日はおおよそいつでしょうか。』

その結果(図2)、問①の正答率は男子：84%、女子：88%、全体：86%と高かった。しかし、



問②では、男子：5%、女子：31%、全体：17%と正答率が低いことが分かった。生殖機能が成熟するこの思春期に、自己の体を知ること、相手の体を理解することは、性感染症の予防において、大変重要なことであると考ええる。

(3) 研究主題との関連

本年度の本校の研修テーマ「意欲を高め自ら学ぶ生徒の育成～問題・課題設定の工夫を通して～」は、昨年度の課題から浮かび上がった「基礎学力定着の必要性」をふまえてのテーマである。これまで行ってきた教科の特性を活かした取組では、一定の成果を上げたものの、基礎学力の乏しさから意欲をうまく引き出せないという課題も残った。生徒の意欲を高め、継続させていくためには、実態に応じた課題の設定が大切であり、基礎学力の確実な定着がさらなる学習意欲をよび、自ら学ぼうとする生徒の育成につながっていく。そこで、生徒の実態や題材に適した課題を意図的に設定し、意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成を目指す。保健体育科では、運動分野に比べて、保健分野の関心が低いことがアンケート調査を行って分かった。このことから、自分自身にも起こりうる問題として捉えられるように導入を工夫し、自己の考えをもたせ、意見交流ができる場面を設けていきたい。そして、授業を通して得た知識だけにとどまらず、現在及び将来の生活で課題に直面した場合に、適切な判断のもとに行動できる力を身に付けることのできる生徒の育成を目指したい。

(4) 指導方針

<つかむ過程>

- ICT機器を活用し、感染症と性感染症を比較しながら、学習を進めていく。
- ワークシートを活用して、確認したい内容をまとめる。
- 科学的根拠となるデータを示し、感染症の課題に気付かせる。
- 交流する活動を取り入れることで、自分の考えと友達のことを比較したり、自分の考えを深めたりできるようにする。
- 教師による演示実験を通して、性的接触による感染の危険性について気付かせる。

<追求する過程>

- 課題解決方法を考える上で、ヒントとなるような資料を用意する。
- 個人で追求する時間を設定し、その後、グループ交流、クラス全体での交流へと広げていく。
- グループで出された意見を発表用シートにまとめ、ホワイトボードに掲示する。

<まとめる過程>

- 性感染症の特徴や予防方法について、全体で確認し、必要があれば補足する。
- 学習を通して、分かったことや今後の生活に向けて思うことなどを書かせる。その際、自分自身にも起こりうる問題として捉えられるよう助言する。

Ⅲ 単元の目標

- 感染症の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。
(関心・意欲・態度)
- 感染症の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
(思考・判断)
- 感染症の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようにする。
(知識・理解)

IV 評価規準及び指導の計画概要（全4時間予定）

観点・項目	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
単元の評価規準	感染症の予防について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	感染症の予防について、課題の解決を目指して知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	感染症の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解している。
学習活動に即した評価規準	①感染症の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②感染症の予防について、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①感染症の予防について、健康に関する資料などで調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②感染症の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①感染症の予防について、理解したことを言葉や文字で表している。

V 指導と評価の計画

時	学習活動	観点別評価規準			
		ア 関・意・態	イ 思・判	ウ 知・理	評価方法
1	<p>【感染症の原因とその広がり方】</p> <p>1. 感染症の病原体や種類別の特徴などについて、スライドや資料をもとに調べる。</p> <p>2. 感染症の感染経路について、グループで話し合いながら、種類別にまとめる。</p> <p>3. 感染症の発生要因には自然環境、社会環境、主体の状況が関わっていることを知る。</p> <p>4. 分かったことや感じたこと、今後の生活で気を付けたいこと</p>	①		①	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症が起こる原因を意欲的に考え、発表しようとしている状況を捉える。（観察） <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の原因とその広がり方について理解し、言葉や文字で表している状況を捉える。（観察・ワークシート）

	等をワークシートにまとめる。				
2	<p>【感染症の予防】</p> <p>1. 感染症の予防3原則について、知る。</p> <p>2. ノロウイルスとインフルエンザウィルスを例に、症状や感染経路、予防方法について個人で考えた後、グループで話し合い、全体で共有する。</p> <p>3. 分かったことや感じたこと、今後の生活で気を付けたいこと等をワークシートにまとめる。</p>	②		①	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりして、学習したことを活用して考え、説明している状況を捉える。(観察) <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防をするために有効な方法を理解し、言葉や文字で表している状況を捉える。(ワークシート)
3 本時	<p>【性感染症の予防】</p> <p>1. 性感染症の種類別の特徴や感染経路などについて、スライドや資料をもとに調べる。</p> <p>2. 実験を通して、感染に気付かないうちの性的接触によって、感染を広げる危険性があることを知る。</p> <p>3. 性感染症の予防方法について、個人で考えた後、グループで話し合い、全体で共有する。</p> <p>4. 分かったことや感じたこと、今後の生活で気を付けたいこと等をワークシートにまとめる。</p>		①	①	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 性感染症の特徴と感染経路などについて理解し、言葉や文字で表している状況を捉える。(観察・ワークシート) <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料やグループでの交流を通して、若者の性感染症の流行理由を考えたり、予防方法を見付けたりしている状況を捉える。(観察・ワークシート)
4	<p>【エイズの予防】</p> <p>1. スライドや資料をもとに、エイズの疾病概念や感染経路について調べる。</p> <p>2. グラフをもとに、日本のHIV感染者(エイズ患者含む)の動向を知る。</p> <p>3. エイズの予防方法について、個人で考えた後、グループで話し合い、全体で共有する。</p> <p>4. わかったことや感じたこと、今後の生活で気を付けたいこと等をワークシートにまとめる。</p>		②	①	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> エイズの予防について、理解したことを言葉や文字で表している状況を捉える。(観察・ワークシート) <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> エイズの予防について学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりして筋道を立てて説明している状況を捉える。(観察・ワークシート)

VI 本時の展開 (3 / 4)

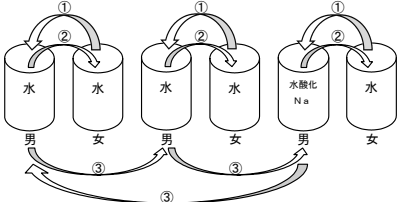
(1) ねらい

性感染症の特徴を理解し、性感染症が低年齢化していることに気付くとともに、自分自身にも起こりうる問題として、その予防方法を考えることができる。

- (2) 準備 授業者 ワークシート、プロジェクタ、実験用具 (ビーカー6個、水酸化ナトリウム水溶液、フェノールフタレイン溶液)、発表用シート、ホワイトボード
 生徒 ワークシート、保体ファイル

(3) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価等
導入 5分	1. 感染症予防の復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防について前時で使用した掲示物で確認をする。 ・前時に学習した感染症と性感染症を比較しながら、学習していくことを確認する。 	
展開 ① 10分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><めあて> 性感染症の特徴や現状を知り、性感染症の予防について考えよう！</p> <p>2. 性感染症は性的接触により感染する病気であることを理解するとともに、主な性感染症 (クラミジア、ヘルペス、淋菌) の症状を知り、ワークシートにまとめる。</p> <p>◇ワークシート【チャレンジ①】</p> <p>3. 「性器クラミジア感染症」の年齢分布のグラフを読み取り、現状を知る。また、友達と意見交換を行い、その理由を考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><発問1> このグラフから読み取れることは、どんなことですか？</p> <p>◇ワークシート【チャレンジ②】</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・20～24歳の女性患者が多い。 ・10代の患者もいる。 ・患者の多くは若い世代。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを用いて、性感染症が性的接触により感染する感染症であることを確認する。また、性感染症の種類や潜伏期間、感染経路、性差によって症状が異なることを確認する。 ・「性器クラミジア感染症」の年齢分布のグラフをスライドで示し、気付いたことを発言するよう促す。 ・交流するときの約束事を確認し、隣や前後の友達と抵抗なく自分の意見が言える雰囲気作りに努める。 ・数名に生徒に発表させ、意見をクラス全体で共有できるようにする。 	
	4. 感染に気付かないうちの性的	・水酸化ナトリウム水溶液を扱う	

<p>展開 ② 10分</p>	<p>接触によって、他の人に感染を広げる危険性に気付かせる実験を観察する。</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・混ぜた水は全て赤くなる。 ・感染源がどれか分からない。 ・色の濃さに違いが出る。 など  <p>①・②：男性と女性に見立てたビーカーの液体を混ぜる。 ③：男性に見立てたビーカーを交換した後、同様に①・②を実施。</p>	<p>ため、安全面等を考慮し、教師による演示実験を通して伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性と女性に見立てたビーカーの内、5個は水だけ、1個は水酸化ナトリウム水溶液を混ぜておく。それぞれの液体は、精液、膣分泌液、血液などであることを確認した上で、ビーカーの中身を入れ替えながら混ぜる作業を性的接触と見立てる。 ・フェノールフタレイン溶液を入れる前に、予想される反応を発表するよう促す。 	
<p>展開 ③ 15分</p>	<p><発問2></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうしたら性感染症を予防することができますか？</p> </div> <p>5. 予防方法について、個人の考えをもち寄り、グループで意見交流を行う。また、そこで意見を発表シートにまとめる。</p> <p>◇ワークシート【チャレンジ③】</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性的接触をもたない。 ・多くの人と性的接触をしない。 ・正しい知識をもつ。 ・コンドームを付ける。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防方法を考える上で、ヒントとなるような資料を用意する。 ・グループで交流する際、自分の意見と友達の意見を比較しながら、異なる意見があったら、ワークシートにメモを残すよう指示する。 ・グループごとの発表シートをホワイトボードに掲示することで、クラス全体で様々な意見や考えに触れられるようにする。 ・「性器クラミジア感染症」のグラフに立ち返らせ、なぜ、若者の間で感染が多いのか考えるよう促す。 	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料やグループでの交流を通して、若者の性感染症の流行理由や予防方法について、考えたことを言葉や文で表している。(観察・ワークシート)
<p>まとめ 10分</p>	<p>6. 本時の学習を振り返り、分かったことや感想などをワークシートに記入する。</p> <p>◇ワークシート【振り返り】</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい知識をもち、正しい判断ができるようにしたい。 ・安易な性的接触は避けよう。 ・相手のことを考えて行動できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症の予防の学習を通して、分かったことや今後の生活に向けて思うことなどを具体的に書くよう指示する。 ・自分自身にも起こりうる問題として捉えられるよう助言する。 ・意図的指名により、個人の振り返りを発表する場を設定し、クラス全体で、様々な意見や考えに触れられるようにする。 	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症の特徴やその予防について、理解したことを言葉や文字で表している。(ワークシート)

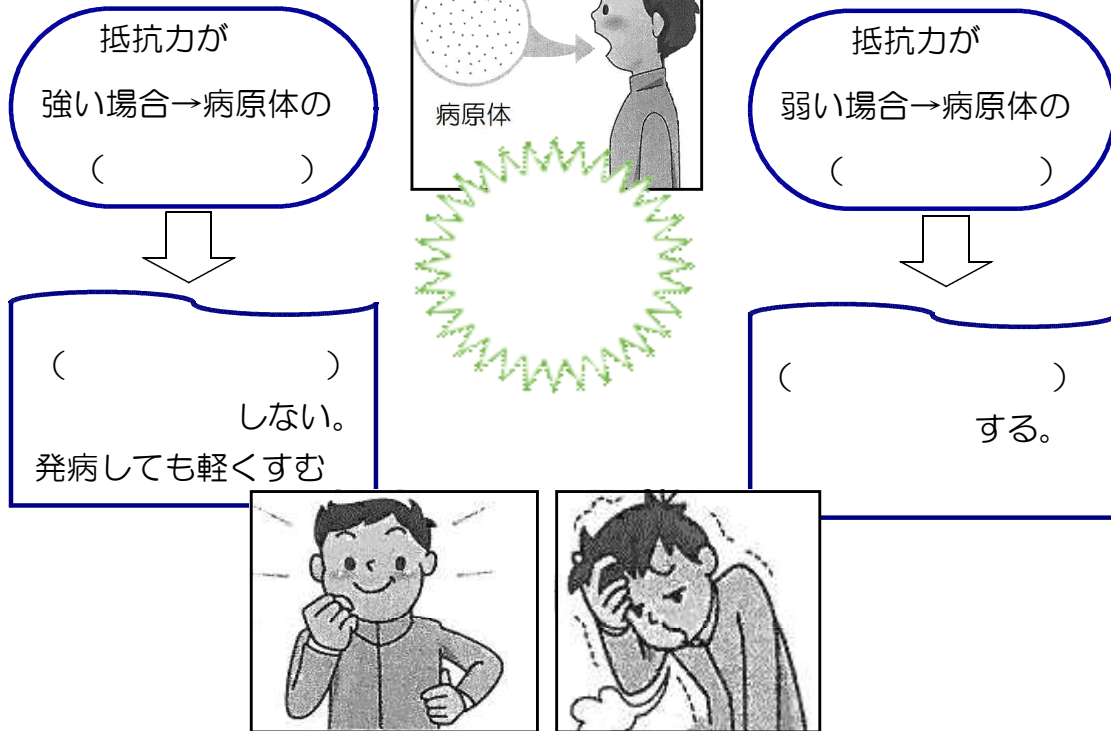
1. 『感染症の原因とその広がり方』

3年 組 番 氏名

<めあて>

感染症

【チャレンジ①】



- ・【感染】私たちの体に侵入して、増殖しやすい場所に住みつく状態のこと。
- ・【発病】感染の後、病原体がさらに()し、発熱などの症状が出ること。
- ・【潜伏期間】感染してから発病するまでの期間のこと。
- ・感染や発病をしたりしなかったりするのには、その人の抵抗力や栄養状態などの条件が異なるため。

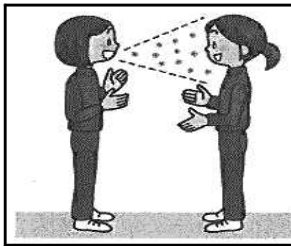
【チャレンジ②】細菌とウイルス何がどう違うの？

	ウイルス	細菌
増殖		
大きさ		
構造		
抗生物質		

【感染症の例】

病名	病原体の種類	主な感染経路	潜伏期間	主な症状
風しん	風しんウイルス	感染者のせきやくしゃみで飛び散ったしぶきなど【資料5】	主に16～18日	発熱、発しん、リンパ節の腫れなど
麻疹	麻疹ウイルス		主に8～12日	高い発熱、発しん、せき、目の充血、鼻水など
結核	結核菌(細菌)		2年以内	発熱、体重減少、顔色不良、寝汗、長引くせきなど
コレラ	コレラ菌(細菌)	感染者のおう吐物やふん便、ウイルスや細菌に汚染された食品や水【資料6】	主に1～3日	
マラリア	マラリア原虫	マラリア原虫をもつ蚊	10～20日	

【チャレンジ②】 感染経路の種類を覚えよう！

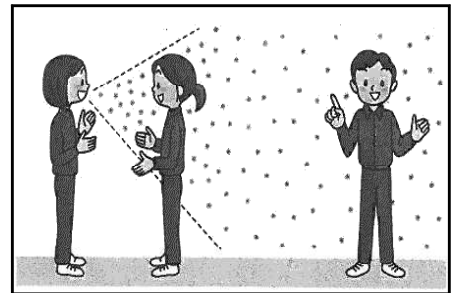


① () 感染

- ・感染した人の () やくしゃみなどによる飛まつ(しぶき)を吸い込むことによって感染する。

② () 感染

- ・飛まつ(しぶき)の水分が () して軽くなり、空気中に広く漂ったものを吸い込んで感染する。感染力が強い。



③ () 感染



- ・病原体が付いた手で触った食品や、病原体に汚染されている食品を () 飲んだりして感染する。

病原体が、身体の中に侵入する道筋を【 】という。

感染や発病①人の条件(体調など)②自然環境(温度・湿度)

③社会環境(住居・人口密度・交通など)

【振り返り】今日の学習を通して、今後の生活においてどのようなことに気をつけようと思ったか書いてみよう。

2. 『感染症の予防』

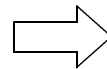
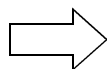
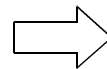
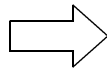
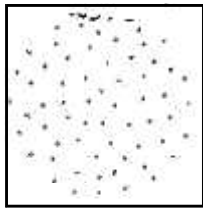
3年 組 番 氏名

<めあて>

感染症

(ノロウイルス・ コレラ菌 ・インフルエンザウイルス等)

【チャレンジ①】



対策1

対策2

対策3

() を
なくす。

() を
断つ。

からだの
() を
高める。

【チャレンジ②】 1～2班「ノロウイルス」 3～4班「インフルエンザ」

5～6班「風疹」 7～8班「サルモネラ感染症」

自己で考えたり、補助資料を使ったりしながらグループでまとめよう。

A【潜伏期間・症状】	B【感染経路】
C【予防①】	D【予防②】

他のグループの発表を聞いて、初めて知ったことなどメモを取ろう。



【チャレンジ③】

- 病原体の種類によって（ ）が異なり、潜伏期間も様々である。
- 病原体の感染による発病を防ぐためには、日頃から栄養や（ ）を十分にとって体力や抵抗力を高めることが大切です。また、ワクチンが開発されている感染症の場合は、予防接種を受けて（ ）という抵抗力をつけることができる。
- 【免疫】とは、自分とは違うモノを排除しようとする「防御システム」のこと。一度目は、そのシステムを作り二度目は、「防御システム」が作動し、攻撃＝（ ）を作る）し、病気にかからないようにしてくれる。
- 【ワクチン】とは、免疫システムを利用し、身体の中に「抗体」をつくる。

【振り返り】感染症の学習を通して、今後の生活において、どのようなことに気をつけようと思ったか書いてみよう。

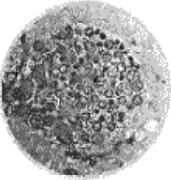

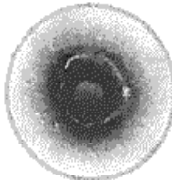


『性感染症の予防』

3年 組 番 氏名

<めあて>

性感染症

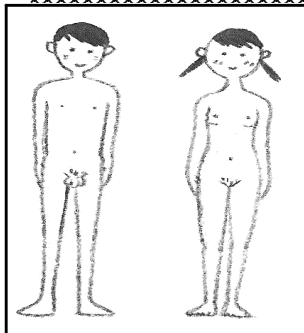
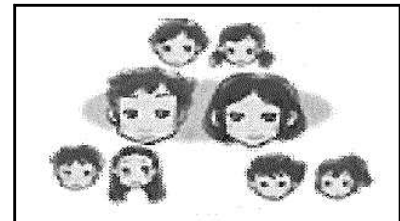
病名	性器クラミジア感染症	淋菌感染症	性器ヘルペスウイルス感染症
病原体	クラミジア トラコマティス (約3,500倍) 	淋菌 (約15,000倍) 	ヘルペス ウイルス (約80,000倍) 
潜伏期間	1～3週間	2～7日	2～10日
主な症状	<ul style="list-style-type: none"> 女性…症状が軽く、無症状なことも多い。放置すると、不妊になることがある。 男性…排尿痛、尿道のかゆみなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性…症状が軽く、無症状なことも多い。放置すると、不妊になることがある。 男性…尿道からのうみ、排尿痛など。 	外性器やその周辺のかゆみ、痛み、水ぶくれ、ただれなど。繰り返し再発する。感染しても発病しない場合が多い。

【チャレンジ①】

・病原体は、()液 ()液 ()液などに含まれる。

・感染経路は、()によって感染する。

・()差によって症状が異なる。



・感染していても、発病しない場合、発病しても()症状がほとんどない場合がある。そのため、本人が感染に気づかないうちに感染を広げてしまう危険性がある。

<不妊症の原因> 男性：尿道炎・精巣上体炎など

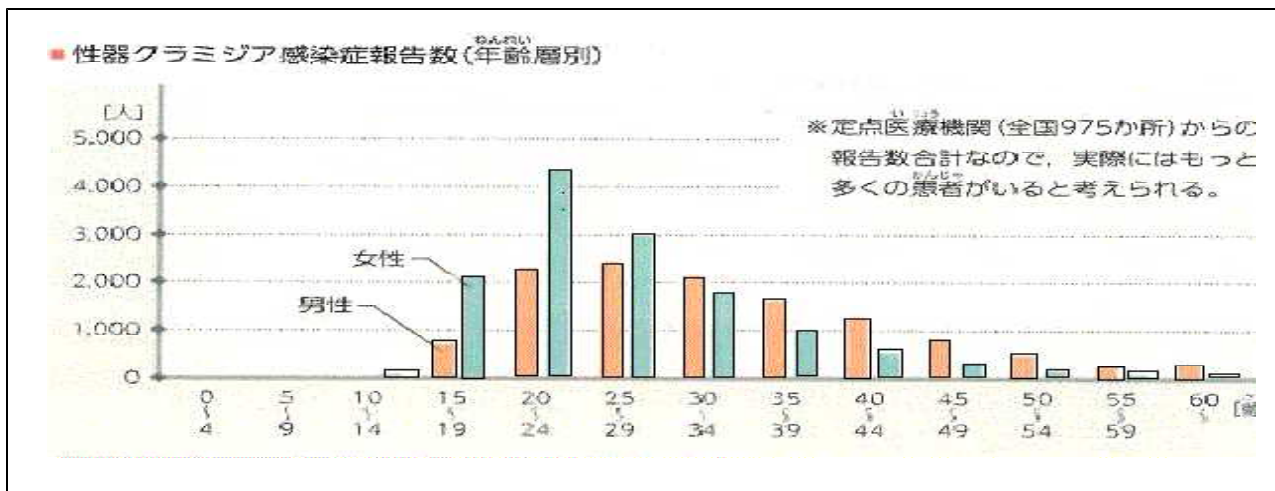
女性：卵管狭窄・子宮頸管炎

<母子感染> 胎児・新生児に感染する場合がある。

症状：肺炎・心臓病・眼疾患など

○性感染症は、()の間で増加している。

○中学生の時期は、体は大人へと近づいているが、精神的・社会的には未成熟である。



【チャレンジ②】 どうしたら性感染症を予防できるか、考えよう。

自分の 考え		理由
自分の 考え		理由
友達の 考え・ つけ足し		

【振り返り】 性感染症の学習を通して、今後の生活において、
どのようなことに気をつけようと思ったか書いてみよう。

『エイズの予防』

3年 組 番 氏名

<めあて>

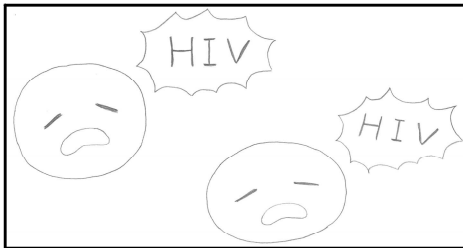
リンパ球の役割

【チャレンジ①】



・リンパ球の役割は、細菌・カビ・ウイルスなどの病原体から守るはたらきをしている。その力のことを（ ）という。

～リンパ球と細菌・ウイルス～



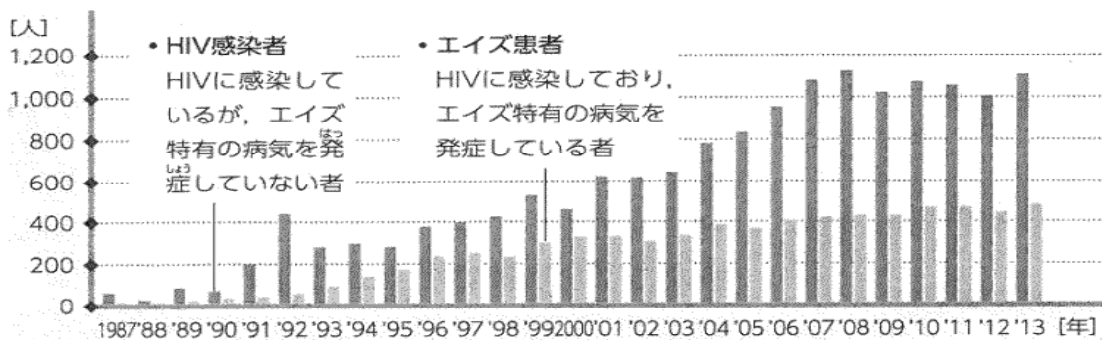
・HIVは重要な細胞であるリンパ球にに感染するウイルスである。HIVはリンパ球という（ ）の中で増殖する。

～リンパ球とHIV～

・リンパ球が多く含まれる精液、膣分泌液、血液などの体液を介して感染する。

【チャレンジ②】 下のグラフを見て、気づいたことをあげよう。

資料 3 エイズの感染とエイズ患者の報告数(日本国内)(厚生労働省「エイズ発生動向年報」)



【チャレンジ③】 どうしたらエイズを予防できるか、考えよう。

自分の考え	理由
友達 の 考え ・ つけ足し	

【エイズの予防方法】

病原体 HIV（ヒト免疫不全ウイルス）

- 感染経路**
- ① 性的接触
 - ② 母子感染
 - ③ 薬物乱用者どうしの注射器具の共有など

予防方法

- エイズ：後天性免疫不全症候群
- HIV感染者：HIVに感染しているが、エイズ特有の病気を発症していない者。
- エイズ患者：HIVに感染しており、エイズ特有の病気を発症している者。
- 性感染症に感染していると、HIVの感染率は数倍高くなると言われている。

【振り返り】 エイズの学習を通して、今後の生活において、どのようなことに気をつけようと思ったか書いてみよう。

『性感染症』 パワーポイント資料

性感染症って どんな病気？

どうやって感染するの？

▶性感染症は・・・

性的接触 = 感染経路
によって感染します

「病原体はどこにひそんでいる？」

- ① 精液（男性）
- ② 膺分泌液（女性）
- ③ 血液（男性・女性）

性感染症の種類は？どんな症状があるの？ 気になること教えます！

- ① 大きく分けて10種類ほどあります
- ② 潜伏期間は種類によって様々
- ③ 症状はなんと・・・
男女によって異なります！！（性差）
今日は、代表的な性感染症の種類を
3つ紹介します！

① 性器クラミジア感染症

病原体： クラミジアトラコマトイス
潜伏期間： 1～3週間
～主な症状～
<男性> <女性>
・排尿痛 ・尿道痛 ・下腹部の痛み ・排尿痛
男女ともに症状が軽く、感染に気が付きにくい！
しかし、病気は進行していく・・・

② 淋菌感染症

病原体： 淋菌 潜伏期間： 2～7日
～主な症状～
<男性> <女性>
・排尿痛 ・おりものの増加
・尿道からのうみ ・性器のかゆみ
男性は、排尿痛時の痛みで気づきやすい **女性は、症状が軽いので気づきにくい**

③ 性器ヘルペスウイルス感染症

病原体： ヘルペスウイルス
潜伏期間： 2～10日
～主な症状～
男性も女性も・・・
性器のかゆみ、痛み、みずぶくれ、ただれ
ちなみに・・・ 男性のほうが症状が軽い

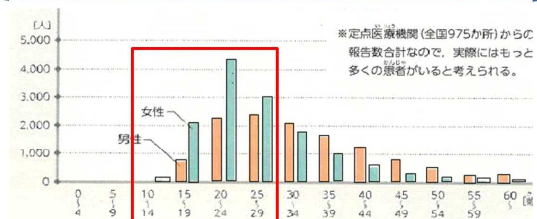
性感染症の怖いところは・・・

- ① **性差**によって症状が異なること
 - ② 種類によっては**自覚症状**がない
 - ③ **自然治癒**しない
- ⇒ということは・・・
感染に気付かないうちに・・・
感染を広げてしまう危険性がある！！！！

性感染症の報告数

感染症	男性	女性
性器クラミジア感染症	11,936	13,024 ▲
淋菌感染症	7,710 ▲	2,095
性器ヘルペス感染症	3,293	5,360 ▲

性器クラミジア感染症の年齢別報告数



まとめ

1 授業づくりにあたって（授業構想）

「感染症の予防」の授業を構想するにあたり、次の3項目を重点とした。

- (1) 感染症の種類、感染経路、主な症状など特徴を知ること。
- (2) 自分自身にも起こりうる問題として課題を捉えること。
- (3) 本時の課題を解決するために、資料を活用しながらグループで意見交流をすること。

(1)は、分かりやすく伝えるためにスライドを使用したり、掲示資料を活用したりしながら伝えることに努めた。「感染」と「発病」の違いを伝える場面では、体調が良好な場合、感染したとしても発病しないことや体調が思わしくない場合は、体内に侵入した病原体が増殖していき、発病することを視覚的に捉えられるようにした。性感染症の種類や症状を伝える場面では、スライドを活用し、男女によって異なる症状を比較できるよう工夫をした。保健の学習は、知識を伝える場面にとどまらず、実生活と照らし合わせながら学ぶための時間を確保することが重要であり、限られた時間の中で知識を伝えることを意識した。

(2)は、自分自身にも起こりうる問題として捉えるための問題提起を工夫した。感染症の予防では、近年流行している感染症（インフルエンザ、風疹、ノロウイルス、結核）を取り上げ、それらの感染症に感染した人の数（割合）や事例を取り上げた。性感染症の予防では、感染の広がりを伝えるための実験を行った。エイズの予防では、性感染症に感染しているとエイズに感染する確率が上がること、不治の病であることを伝えた。それらの具体的な事例や実験を用いることで、身近な問題として捉えることができると考えた。

(3)は、本単元に関わる生徒の実態における課題である。本生徒は、積極的に発言する生徒は少なく、やや活気に欠ける部分もある。また、事前アンケートでは、保健分野の学習が「どちらかといえば楽しくない」・「楽しくない」と答えた生徒は、37%であった。この結果から、②の課題をグループで意見交換することで、「分かった」・「なるほど」などの感想や「みんなと意見交換ができて楽しかった」などの感情が生まれることをねらいとした。なお、グループでの意見交換の場面では、話し合いが円滑に進められるよう補助資料を活用した。

2 授業研究会より（○：よかった点 ●：課題及び改善点）

(1) 指導者の生徒へのかかわり方

- 個人で考える場面では、補助資料を準備しており、よかった。
- 生徒が発言する場面が多く、よかった。
- 机間巡視時に名簿を持ち回することで、指名する生徒を考えていた。記入内容も把握していた。
- 生徒自ら挙手をしたり、発言したりする場面がもっと多くあるとよかった。

(2) 教材化の工夫

- 学習カードが穴埋め形式であり、時間短縮につながった。キーワードはきちんとおさえられていた。
- スライドを使ったことで、性感染症について短時間で知識を伝えることができていた。
- 感染の広がりを伝える実験は、感染の恐ろしさが伝わった。
- 感染の広がりを伝える実験なので、あらかじめ誰が感染しているか示してから実験してもよかった。
- 実験の経過をホワイトボードなどで、樹形列で示しているとより分かりやすかった。
- 実験の様子が全員がきちんと見えるよう、モニターに映し出してもよかった。

(3) 課題設定・見通しのもたせ方

- ICT機器の活用で感染症と性感染症を比較しながら進めていたのがよかった。

- 導入では、前時の復習から生徒の「知りたい」につなげ、生徒からめあてにつながる発言があったのがよかった。
- 予防方法を考えるだけでなく、これから自分がどう行動したらよいかまで考えさせていた。
- 参考資料は全てのグループに同様にあるとより話し合いが深まると思った。
- 感染症の予防に視点を当てるだけでなく、「なぜ多くの若者に感染しているか」について考えさせてもよかった。
- 近年流行している「梅毒」について触れておいてもよかった。

(4) 発問・掲示物 (板書)

- 生徒から「めあて」のキーワードを出せたのがよかった。
- 性的接触の必要性を伝えたことによって、様々な考えが出されていた。
- 性感染症の予防方法を再確認する上で、板書でまとめるとよりよかった。
- 性器クラミジア感染症の年齢別グラフで、もっと10～14歳女子に注目させた方がよかった。

(5) 自己評価・相互評価

- 予防方法を考えさせるとき、理由もつけさせることで考えが深まっていた。
- 自分自身にも十分起こりうる課題として振り返ることができていた。
- グループ活動の時間が短かったのもう少し取れるとよい。

(6) 指導計画・指導内容

- 予想される生徒の反応が的確で、実態に合った授業の展開であった。
- 保健は一方的に知識を教え込む授業になりがちだが、グループで交流したり、本で調べさせたりするなど、生徒が自ら考える時間が取られていてよかった。
- 教師と生徒とのやりとりがもう少し活発になると、生徒の学びも深まったと感じた。
- 2時間に分けて指導してもよかった。

(7) 生徒の取組

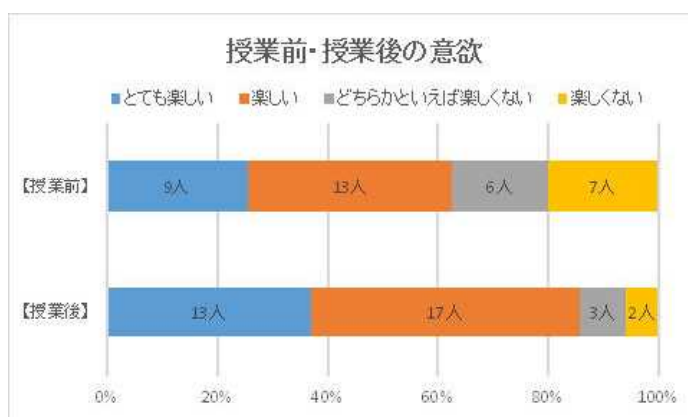
- 男女混合で構成されたグループ活動では、互いに意見を出し合い、活発な意見交流ができていた。
- 生徒が意欲的に意見を出し合い、話し合い活動をしていた。
- 参考資料は、学習活動を始めるときに提供してもよかった。
- 話し合いの結果を生徒の言葉で共有できるとより主体的な活動につながると思った。

3 生徒の変容

(1) 保健分野への意欲について 【保健分野の授業は楽しいですか】

【授業前・授業後アンケート結果より】

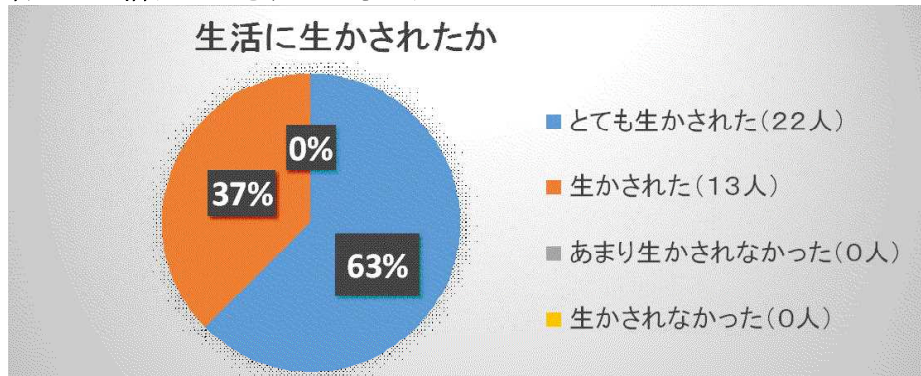
授業前と授業後のアンケート結果は、「とても楽しい」「楽しい」と答えた生徒の割合が63% (22人) から85% (30人) に増加した。その理由として、『教科書を読んだり、板書したりするだけでなく、グループで意見を交流することができた』『今までは保健の学習は大切なんだろうけど、自分自身の身には起こらないだろうと思ってました。しかし、実験などを通して気を付けようと思えました』等が挙げられた。



生徒が「他人事」ではなく、自分自身にも起こりうる問題として捉えることができるようにすることが大切だと改めて感じた。そのために、「何を伝え、何を考えてもらいたいのか」を明確にすることが重要である。知識だけにとどまらず、現代社会の現状を踏まえ、生徒たちと共に考える授業が大切であると感じた。

(2) 感染症の予防の授業が自己の生活に生かされているかについて

事前アンケートでは、保健の授業が生活に「とても生かされて・生かされている」と答えた生徒は、47%（16人）であったが、授業後は「とても生かされている・生かされている」と答えた生徒は、100%（35人）に増加した。



第1時・2時においては、現在の実生活の中で気を付けよう意識している様子が見て取れた。第3時・4時では、今後どのような行動に気を付けていくことが大切か考えることができた。授業の振り返り場面では、授業で学んだことに加え、今後の生活においてどのようなことを気を付けようと思ったか書いたり、発表したりする時間を設けたことが、増加に繋がったのではないかと考える。振り返りをする時間の確保をすることはもちろん、互いの意見を共有する時間を今後も大切にしていきたい。事後アンケートで、各授業を振り返り、分かったことや感じたこと、今後の生活で気を付けたいことなどについての生徒の記述は、以下の通りである。

第1時<感染症の原因と広がり方>

- 感染しても、発病しないようにしっかり睡眠をとっている。
- 家の中での経口感染には気を付けたい。
- 人がたくさんいる所に行くときは、マスクをしている。

第2時<感染症の予防>

- インフルエンザになりたくないなので、しっかり手洗いうがいをしている。
- 給食の前は、しっかり手を洗うようになった。
- 加熱されていない食品を扱うときは気を付けた方がよい。

第3時<性感染症の予防>

- むやみやたらに性的接触をしないようにしたい。
- 性的接触をするときは避妊具を使う。
- 相手の気持ちも考えて行動する。

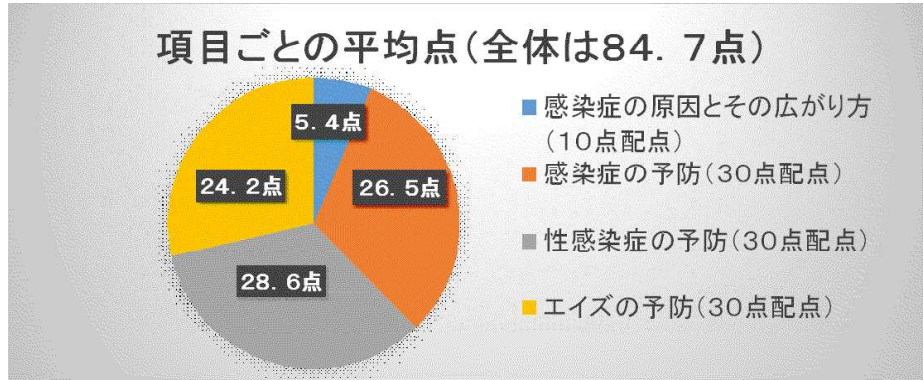
第4時<エイズの予防>

- 正しい知識をもって生活する。
- 性感染症に感染するとエイズに感染しやすくなるので、気を付ける。
- エイズの予防方法も避妊具を使うことなので、気を付けたい。

(3) 感染症の知識理解について【確認テスト：感染症の原因とその広がり方～エイズの予防】

授業のことを思い出し、記憶をたどりながら解いてもらいたいという意図があり、試験は学習カードの内容に基づいたものとした。

また、単元の授業が終わって間もないうちに確認テストを実施したこと、その場で採点を行い、解説を加えたことで知識の定着をねらいとした。その結果、84.7点と良い結果となった。感染症や性感染症の予防方法を正しく理解し、自己の健康や自他の命を大切にしたい意思決定や行動選択ができる力を更に育てていきたい。



【考察】

(保健分野への関心・意欲・態度)

保健分野の学習が、自分自身にも起こりうる問題として捉えられるようにするために、実験等を取り入れ、分かりやすく伝えたこと。また、個人で考える場面やグループで意見を交流する場面を取り入れる中で、「自分の意見が賞賛された」や「この子の意見に共感」などの感情を味わえるようにしていったことで、多くの生徒が意欲的に保健学習に取り組んでいた。

(保健分野への思考・判断)

正しい知識のもとに、適切な判断をする力と行動する力が大切である。学習カードには、『性的接触を行わなければいけないという時があったら、感染のことをよく思い出して気を付ける。自分もそうだが、相手の気持ちを考える』(性感染症の予防より)という感想があった。性衝動にまかせて行動するのではなく、起こる結果を予測し、責任ある行動を選択しようとする意見が多く見られた。

(知識・理解)

毎時間の授業のはじめには、前時の授業を振り返り、本時のめあてに繋がるようにした。また、授業の終わりに振り返りを行うことで知識の確認をし、どこにつまずいているかを把握することもできた。授業では、得た知識のもとに、自己で考えたりグループで意見を交流することができた。今後も、身につけた知識を生かし、考えを発展させたり、グループで意見をまとめたりして取り組めるようにしていきたい。

4. 授業後の生徒の感想など

感染してしまっても気付いたら治すしかないのかと怖いなあと感じた。
大人になって小生の行為をする時に、自分が感染しちゃうのも、自分が
うつっちゃうのもいかなので、知っている知識を使って予防したいです。

感染しないよう、性的接触をできるだけしないようにする。
また、感染した場合は他の人に感染しないよう、性感染症の症状がいつでも
出ていたら検査してもらい、性感染症のことを(自覚)することが必要。

5 成果と課題

(1) 成果

【保健分野への関心・意欲・態度】

- ・アンケート結果から、生徒が保健分野に興味・関心をもち、楽しみながら授業に取り組んでいた。
- ・グループで意見を交流する場面では、活発なやりとりをしており、友達の意見に称賛したり、グループの考えを練り合う姿が見られた。

【保健分野への思考・判断】

- ・性感染症の予防方法について、グループで意見交流をする場面では、性器クラミジア感染症の年齢分布表を活用し、「正しい知識がないから、多いのではないか」と仮説を立て、『きちんと避妊具を使う』と予防方法をまとめることができた。また、「感染症を予防する3つの対策」を思い出し、『感染経路を断てばいいのだから・・・』と習ったことを踏まえて考えられているグループもあった。
- ・今後、自分がどんな行動をとったらよいか、多くの生徒が考えることができた。

【保健分野への知識理解】

- ・導入では、前時の振り返りを最初に行った。問題を投げかけると多くの生徒から答えが返ってきて良い雰囲気をつくることができた。
- ・感染症の恐ろしさを伝える実験を行ったことで、その感染力を視覚的に捉えることができた。
- ・学習の振り返りでは、初めて知ったことや驚いたことなど伝えたい内容が学習カードに書くことができた。

(2) 課題

【保健分野への関心・意欲・態度】

- ・1時間の授業の中で、伝えたい内容と考えさせたい内容が両方とも多くなったため、2時間に分けた方がよかった。
- ・生徒の考えを聞いたり、グループの意見を発表したりする時間が少なく、一方的な授業になってしまった。

【保健分野への思考・判断】

- ・「性感染症の予防方法」を見付けることが授業のめあてであったが、『なぜ若者に性感染症が増えているのか』に着目してもよかった。
- ・グループで意見を交流する時間が少なく、意見を練り合う時間が少なかった。

【保健分野への知識理解】

- ・性感染症の予防方法の意見が多かったのが「病院に行く」であった。とても大切な意見ではあるが、性感染症は性差によって症状が異なったり、自覚症状が少ないのが特徴である。「自覚症状がなくても病院に行きますか？」という投げかけをしてもよかった。その際、一度実験の様子を振り返らせてもよかった。
- ・性感染症の感染の恐ろしさを伝える実験では、実験の伝え方に加え、実験の意図が伝わりにくかったと感じた。ホワイトボードに実験の様子を樹形列で示し、分かりやすく伝えてもよかった。

6 授業の様子

①本時のめあての確認

前は、感染症の
どんなことについて
学びましたか？



今日のめあては
何だろう～？

②性感染症の種類と性差による症状の違い

性感染症ってどんな
病気なんだろう？

- ・性器クラミジア感染症って、
20代前半が一番多い！
- ・10～14歳の女性もいる！



③感染に気付かないうちに性的接触によって他の人に感染を広げる危険性に気付かせる実験



全部赤くなった！！

これは、どういうことかな？

④性感染症の予防方法を考えよう。



補助資料

資料これに
してみよう！



<p>自分の考え</p> <p>痛みなど感じたら病院に行く。</p>	<p>理由</p> <p>感染しないようにするため。</p>
<p>自分の考え</p> <p>性的接触をしない。</p>	<p>理由</p> <p>感染経路を無くすため。</p>

⑤グループでの意見交換

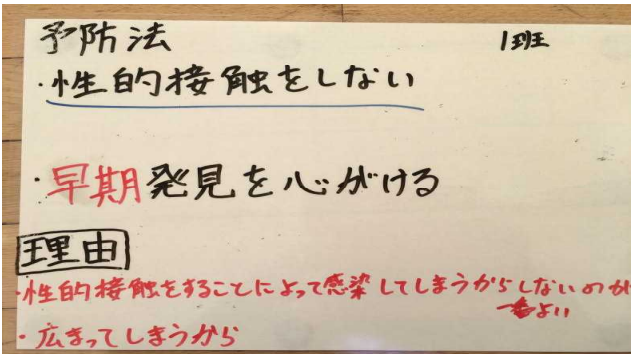
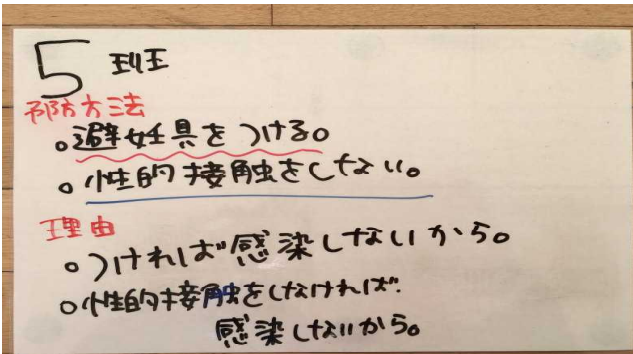


『うんうん、なるほど！』
『あ～同じ意見！』



『資料にも同じこと書いてある！』
『あ～本当だ！』

⑥グループの意見を全体で共有



教師が共通した意見をまとめました。

- ・ 感染の危険がある性的接触を避ける。
- ・ 避妊具＝コンドームを装着する。
- ・ パートナーと一緒に病院を受診する。
- ・ 相手のことを思いやり、互いの心と身体を大切にしていきましょう。